

## 高齢者の食べる喜びを支える作業療法

### 特集にあたって

わが国は、世界のどの国も経験したことのない超高齢社会を迎えている。われわれは臨床で高齢者特有のさまざまな問題に直面することも多い。その中でも解決しなければならない課題の一つが食事である。

食事は人間が生活を営むうえで、きわめて重要な要素をもっている。それは食事が生理的側面、社会的側面、文化的側面等、身体的および精神的側面をもち、そして QOL に与える影響がきわめて大きいからである。

わが国では 1997 年（平成 9 年）に言語聴覚士法が成立して以来、それまで OT が担っていた摂食・嚥下リハの大部分を ST に業務譲渡してきた経緯がある。しかし現状では今回の特集でも明らかになっているように、OT に対する他職種の期待が依然大きいことがわかっている。

ところが、山村らが調査した結果<sup>1)</sup>では、OT は摂食・嚥下リハについて具体的知識が不十分であるため積極的介入に至っていないとの報告もあり、再度現代における「食事」というテーマについて再考の必要性が生じたと考えた。

そこで今回は「高齢者の食べる喜びを支える作業療法」と題して、基礎的理解、臨床の実際、さらに在宅生活（医療）を意識した調理活動の中で必要な栄養学をも網羅し、より実践に近い内容で、実際に高齢者医療の第一線でご活躍の先生方に執筆していただいた。今回の特集で各 OT が医療者としてどのようなかわりが可能なのか、今後のリハに生かしていただければ幸いである。

（中園貴志）

### 文献

- 1) 山村真由，他：作業療法士における摂食・嚥下リハビリテーション—三重県下作業療法士における摂食嚥下リハビリに関するアンケート調査報告。呼吸ケアと誤嚥ケア 1(2)：38, 2008

### 企画担当

中園 貴志（九州大学病院別府病院，作業療法士）

中村 春基（兵庫県立リハビリテーション中央病院，作業療法士）

宮崎 明美（児童発達支援センター みどり学園，作業療法士）